

1 梨の生育状況等について

梨の結実は、いずれの品種もやや少ない～著しく少ない状況です。果実肥大は、6月17日の無作為調査結果では、「幸水」の横径が36.3mmと前年、平年よりも小さく（前年値38.3mm 平年値38.8mm）、大きさにばらつきが見られます。

黒星病は、5月の気象データによる感染危険日の発生回数が多かったことから、葉の軸を中心に発生が見られます。6月末頃から「幸水」の果実に感染しやすい時期となることから、今後の発生防止対策の実施が重要です。

害虫は現在、トラップへの誘殺数は少ない状況ですが、収穫期間中の発生を防止する対策が重要です。

2 摘果作業について

表に示す、収穫時の標準的な着果量が見込めない場合は、通常は摘果するような小玉果、変形果、サビ果、傷果も残す等、着果量の確保を最優先として、新梢の過繁茂を防ぐことと、「幸水」については、7月上～中旬頃の裂果による着果量のさらなる減少を防ぐようにしてください。（号外第6号参照）。

表 収穫時の標準的な着果量

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり（100～120cm）	1樹当たりの着果量（3間植の場合）
幸 水	10～11果	5～6個	290～320果／樹
豊 水	11～12果	6～7個	320～350果／樹
あきづき	11～12果	6～7個	320～350果／樹
新 高	9～10果	4～5個	260～290果／樹

※補正摘果基準表が必要な方は、資料をお渡ししますので梨会館にお越しください。

3 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

回数	散 布 月 日	薬剤名と希釈倍数	使用時期（収穫前日数）	散布量	主な対象病害虫	防除実施日
1 3	6月26日～28日 （満開76～78日）	ストロビードライフロアブル 3,000倍 （Qo I 剤） オーソサイド水和剤80 1,000倍	前日 3日	300 ㍓	黒星病、輪紋病、黒斑病、うどんこ病	
1 4	7月6日～8日 （満開86～88日）	オンリーワンフロアブル 2,000倍 （DMI 剤） ベルコートフロアブル 1,500倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	前日 14日 前日	300 ㍓	黒星病、輪紋病、黒斑病、うどんこ病 シンクイムシ類、カメムシ類 ケムシ類	
1 5	7月16日～18日 （満開96～98日）	ネクスターフロアブル 1,500倍 （SDHI 剤） オーソサイド水和剤 80 1,000倍	前日 3日	300 ㍓	黒星病、輪紋病、黒斑病、うどんこ病	
1 6	7月26日～28日	オーソサイド水和剤 80 1,000倍 アグロスリン水和剤 2,000倍	3日 前日	300 ㍓	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類	

【重要項目】

- 第13～15回目の防除は、「幸水」の果実が黒星病に最も感染しやすい時期の防除となります。効果の高い防除を実践するため、散布間隔は10日以上空かないよう、また、雨前散布に努めてください。
- 現在現れている黒星病斑は新たな感染源となり、罹病果実の多発の原因になります。見つけ次第、園地外で適切に処分してください。
- 短果枝群、側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤透過が劣り、黒星病の感染・発病を助長させる原因となりますので、摘果作業と並行して新梢管理（芽かき、新梢の切除）を実施してください。

4 コンフューザーNの追加設置について

ナシヒメシンクイやハマキムシ類は梨の収穫期間中にも発生しますが、農薬防除対応が困難なため、収穫前までにコンフューザーNを追加設置し、対策の強化を図ってください。

	内 容	注意事項
設置本数	50本／10a	●ほ場の外周は有効成分濃度が薄くなるため、多めに設置する。 ●傾斜地では斜面上側を多めに設置する。 ●周辺にウメやモモがある場合には、これらを含めて設置する。
設置時期	7月下旬から8月初旬 （「幸水」の収穫前までに）	
設置間隔	約4.5m間隔（1樹あたり1～2本程度）	